

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470800622	事業の開始年月日	平成15年2月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人福祉協会		
事業所名	グループホームそよ風		
所在地	(〒236-0022)		
	神奈川県横浜市金沢区町屋町11-16		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	令和4年10月13日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

◆法人が総合病院のため、医療面でのサポートが受けやすい
◆近隣との関係が良好で、入居者の方を地域の一員として受け入れて下さっている。
◆近隣の方がボランティアや見守り等、ホームを支えて暮れている
◆入居者の方の生活習慣や個性を大切に師、ホームでの生活が心身ともに自由に送ることができるように支援している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年12月10日	評価機関 評価決定日	令和5年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京浜急行線「金沢八景」駅または「金沢文庫」駅から徒歩約10分の静かな住宅地に立地しています。近くには海の公園や漁港、神社・仏閣がある歴史と文化に触れる散歩に適した環境にあります。

<優れている点>

事業所の独自の理念は安心と安寧に満ちた生活を提供することを開設時に作成しています。この理念に沿って「ゆっくり、一緒に、楽しむ」ことをモットーにし、利用者の待つことを大切に、利用者の「出来ることを取らない」「何かできるかを考える」「何をしてもらえるのか」をよく考えて、日頃より気配り、目配り、心配りに努めています。医療に関しては、母体の運営法人の病院医師と看護師が連携し、安心して医療の受診や健康相談ができる体制にあります。緊急時には利用者の心身の状態に異変、その他緊急事態が生じたときは主治医や協力医療機関、家族と連絡し緊急入院ができる体制があります。

<工夫点>

食事は職員が献立を考え、新鮮な地元の野菜と海の幸を食材とし、手作りの美味しい料理を提供しています。家族には日常の生活面、健康面、誕生日会や秋祭りのお好み焼き作り、ハロウィンの焼きそば作りなどの、行事、健康状態、新型コロナのワクチン接種などを家族に知らせ安心につなげています。コロナ禍のため中止となっていた面会は緩和して利用者の喜びと楽しみとなっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	そよ風
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		レ	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		レ	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		レ	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	レ	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	関係者の目に付く事務所・玄関に理念を掲示、常に確認できるようにしている。	理念は開設時に作成し、1階と2階の事務室に掲示しています。理念と合わせてモットーもあります。管理者は新入職員研修時に理念を説明し、職員は日頃の介護・介助の中で理解を深め実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ホームの前にベンチを置き誰でも休んで頂けるようにしている。草取りや、花の手入れなどの時は言葉をかけてくれる。 近所の方とは、野菜やお菓子のやり取りもある。	町内会に加入し、正月には地元の町屋神社へ行き参拝しています。近くの龍華寺の本堂内の展示物を観賞したり、近隣の人がボランティアでプランターに草花を植えたり、学童保育に通う子どもたちへハロウィンのお菓子配りをするなどで交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	電話や訪問等で入居の方法やグループホームについて相談を受ける 近所の方とホームの方が交流することで認知症への理解へ繋がる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員・地域包括職員。ご家族地域の方、利用者様にも参加して頂く。ホームの状況などお伝えします。皆さんからは地域の様子等知ることが出来る。	町内会の代表者、民生委員、金沢区役所高齢・障害支援課、利用者家族などを構成員として2ヶ月に1回開催しています。会議では事業所の取り組みや行事の報告をし、意見交換をしています。現在はコロナ禍のため書面資料を送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	3か月に一回、金沢区のグループホーム連絡会があり参加しています。 現在はコロナ禍のため休んでいます。	管理者は金沢区役所高齢・障害支援課へ業務上の相談をしています。介護度の認定更新は家族に代わって職員が立会いもしています。横浜市高齢者グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしています。現在はコロナ禍のため中止しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていません。 定期的な研修で職員間には身体拘束をしないことで認識できている。 そよ風は玄関が道路に面して車が多く危険。推進会議等での話し合いで安全第一に考えたほうが良いということもあり玄関ドアは施錠している。	身体拘束適正化委員会があり、運営推進会議の中で事例を交えて話し合っています。職員は年間研修計画の中で受講し、自己点検シートを使い振り返りを行い正しい理解に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等で虐待について定期的に学び、職員間の認識ができています。日常業務の中でのストレスをためないことも大事。	虐待防止について、身体拘束適正化委員会と一体で開催しています。おもに事例に基づき話し合っています。職員は高齢者の虐待定義などを学び自己点検シートにて正しい理解に努めています。利用者には「黙って」などのスピーチロックにも留意し、利用者の言葉を取らないようにしています。	虐待防止に関するファイルも作成し、会議などの議事録を記録し、共有化して虐待防止に努めるように期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて、安心センター、後見人を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時、ご家族に契約書に沿って説明し、同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時、管理者、職員等、話す機会を取っている。連絡事項、報告事項でご家族に連絡患様とる際にも、ご家族からのご意見を伺うようにしている。	家族の来訪時に声かけし、意見や要望を聞いて運営面に反映しています。利用者からマッサージ師や歯科医を呼んで欲しいなどの要望にも即対応し、依頼しています。現在はコロナ禍による家族の訪問を緩和し面会を実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、朝夕のミーティングの中で積極的にスタッフの意見を聞くようにしている。	管理者は朝夕の申し送り時や2ヶ月に1回の全体会議時に職員から意見や要望を聞き、業務の改善に反映しています。職員から「勤務割り表」の中でシフトを変更して欲しいなどの要望があります。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務体制、有給希望、など最大限に希望を取り入れて、働きやすい職場づくりを心掛けている。	管理者は職員と随時面談をして職員が働きやすい職場環境づくりに努めています。職員は健康診断を実施し健康管理にも努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修・外部研修ともに有給で行っている。 研修に参加しやすいように、声掛けを心掛けている。資格取得に頑張っている。	年間研修一覧表を作成し、常勤・非常勤を問わず受講できるように支援しています。職員は初任者研修や実務者研修を受講の際には受講料を会社負担とし、職員の自己啓発を支援し、質の向上に努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	金沢区内のグループ補務連絡会や研修会に参加、交流を深めている。 グループホーム以外での、他施設との交流会を持てるように取り組んでいる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ホームの中で出来るだけ早く、ご本人の居場所や役割が見つかるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	困りごとは隠さず一緒に対応できるように努めている。 入所に至る経緯を伺い、まずご家族のお気持ちに寄り添うよう心掛ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族・ご本人に出来るだけ具体的に、説明するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様が出来ること、やりたい事は行って頂く。得意な料理などは作り方を教えて頂き作ることもある。 特に漬物等。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	お便り・メール・電話などで入居者様の様子はお知らせしている。ご家族にも一緒に考えて頂くよう相談もしている。 すぐに対応して下さることもある。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも来て頂けるような声掛けはしている。 コロナ禍での今は家族以外の面会はご遠慮いただいている。	コロナ禍以前は利用者が家族と一緒に美容院や馴染みの店へ外食や、墓参りにも行く人もいました。家族と一緒に旅行したり、親族の結婚式に出席したり、正月には自宅へ帰る人もいます。 現在はコロナ禍のため家族との外出は通院のみです。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士お互いの部屋に行き来し、交流している。もめることもある。そういう時は職員が間に入って支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了しても外出ボランティア・地域推進会議などに参加して下さる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	改めてお聞きしても話して頂けないこともある。入浴や散歩のときなど楽しい雰囲気の中で思いを聞くこともある。	利用者をよく観察し、小さな変化に注意をしています。散歩や入浴時のリラックスした時に、ふとこぼれる本音を聞き逃さないようにしています。新しい情報は日々のミーティングで共有し、思いや意向に沿う対応ができるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人の生活歴・習慣は大切にしていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝夕の申し送りなどを利用して、入居者様の状態の把握を伝え共有するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員会議でのカンファレンス・入退院・状態変化のある時にモニタリング。ご家族様からは、来所において面談等で要望をお聞きしている。	ケアプランの長期目標は1年、短期目標はその人の状況により、6ヶ月～1年で設定をしています。職員会議や日々のミーティングで随時ケース検討を行っています。退院後などは現状に即するよう、速やかに見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情+D50+C59:C74	個人記録記録に日々の様子を記録している。朝夕のミーティングで確認したことは、申し送りとして記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人が入所されてしまうと、残された妻（夫）が一人暮らしになってしまうため、安否確認のような支援もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍での行動は制限はあるが、町内会・地域包括支援センターを活用して楽しめるようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様・ご家族様の希望に沿って係り付け医を決めている。定期的に受診をし健康管理をしている。	内科や歯科の訪問診療は個人個人で契約をしています。定期的な通院が必要な場合は施設長が付き添っています。家族対応の通院時も施設長が同行しています。毎週看護師の訪問があり、健康面でのサポートをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと医療を図っている。1回/W看護師による健康チェックを行っています。 又、法人が病院のため必要時には法人に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームから病院に介護サマリを渡し、退院時には必要なカンファレンスを行う。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	今後看取りも必要と考える。 現時点では行っていない。	重度化や終末期に事業所でできること、できないことを入居時に説明をしています。本人の状況を見ながら家族と話し合いをし、次の段階の施設に移るまで、その人にとっての最善の支援を職員は続けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入居者様の急変や事故については職員全員が初期対応、緊急連絡できるように確認している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災・災害の訓練は年2回行っている。 10月風水害に避難訓練・春に地域を巻き込む火災訓練を行うが、コロナ禍により今はホームのみで行う。	夜間想定を含む年2回の避難訓練と防災業者による事業所全体の点検を行っています。運営推進会議の中で、民生委員から地域の協力者についての提案を受けています。非常災害用の備蓄品は3日分以上ありリストを作成し保管管理をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親近感のある言葉使い・対応を心がけているが、入居者様の尊厳やプライバシーを損なうことがないように注意している	認知症の理解、接遇、法令遵守など定期的な研修で理解を深めています。本人のできることを取らない、何ができるのか、何をしてもらえるのか、気配り、目配り、心配りを常に意識して支援をするよう、施設長は職員に伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居様は様々なことを自己決定ができるよう支援している。職員はそれに寄り添っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様一人ひとりのスペースを大切にしている。 職員は入居者様が、自力で日常の活動を行うことができるように、見守りを基本としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の好みは大事に、季節感や動きやすいことも考え支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様の嗜好は、ある程度分かっているが、好みが変わることもあるので常に職員間で確認し、新しい情報を共有している。	食事は手作りにこだわり、食材も近隣の店で旬の物や地物を選ぶようにしています。食事の時は感染症に留意し、テーブルに飛沫防止用ボードを置き、利用者と職員は同じ献立を一緒に食べています。白菜やらっきょうを毎年利用者と漬けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量・個々に合わせた食事形態は常に守っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず歯磨きを行う。個々に和えあせた支援になっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄確認の必要な方には排泄記録を取っており、個々に合わせたトイレ介助が出来る。	排泄に関し自立をしている人は自分の感覚やタイミングでトイレに行っています。その際職員はさり気なく観察をしています。支援が必要な場合は個々に合わせた声掛けや誘導をしています。職員のトイレ誘導の支援による改善事例が複数あります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜・キノコ中心での献立を心掛けている。夏場以外でも水分摂取の必要性について伝えている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	3回/Wの入浴を基本に考え行っている。気分が乗らないで拒否する方もいるので、職員も対応に苦慮することもある。	入浴は週3回を基本に支援をしています。利用者の状況によっては安全面を考慮し2名体制で行っています。同性介助の対応も可能です。拒否がある場合は毎日のミーティングなどで職員間で情報を共有しながら対応策を検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間の徘徊がある方には、居室・居間・トイレ等安全に動けるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	おひとりの薬を3段階で職員が確認。使用目的、種類を理解している。飲み終わるまで確認するよう理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	それぞれ出来る仕事で役割をもって頂く。楽しく働く姿が家族も喜びになっている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人の外出支援は難しい。散歩外出にとどまっている。 家族との外出支援はしている。 家族旅行やお孫さんの結婚式出席等。	コロナ禍が続いているので、現在は近隣散歩や玄関前のベンチでの外気浴程度にとどめています。家族との外出も通院時のみとしています。以前のような近隣での買い物や家族との自由な外出支援はコロナ収束後としています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	近くのスーパーに買い物に出る。好きなおやつなどを選び、自分で支払いをする範囲のお金を持参。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状の支援をしている。 なかなか家族や親類に会えない方も、年賀状等の挨拶でつながるような支援。 電話の取次ぎ等も支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を玄関や居間に飾り季節を感じて楽しむ。 食事の時は音楽を流している。	建物の老朽化は否めませんが、清掃、換気、消毒など丁寧に行っており、清潔で居心地の良い共用空間となっています。リビングではクリスマスに合った装飾をし、季節を感じられるよう工夫しています。利用者の意見や感想を聞きながら制作しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関に小さなベンチを置いている。 靴を履き替えるとき、上着を着るとき外を見ながら気の合う方とおしゃべりをするとき、使うこともある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は子本的にご自分のなじみの家具や飾り物で過ごされている。	事業所の備え付けのほか、仏壇、タンス、家族の写真、鏡、化粧品など本人の大切なものや愛用品を持ち込んでいます。いざという時のため、自前の防災頭巾を枕元に置いている居室もあります。気の合う利用者同士で居室間の行き来をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	夜間転倒の心配のある方、立ち上がり際に心配のある方、夜間徘徊のある方それぞれの環境整備に工夫している。		

2022年度

目標達成計画

事業所名 グループホームそよ風

作成日： 令和5年 2 月 23 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		・アンケートの結果から、ご家族から見てわからない。今のサービスに少し不満がある。との回答が少数あり、努力が足りないことを実感した。	ご家族全員に、満足頂けるよう努力する。	ご家族の面会時にはご本人の様子を伝えるとともに、ご家族から気になる点や、希望をお聞していく。	12ヶ月
2		・自分の思いや、願いを言葉で伝えることが難しい方たちなので、今まで以上にきめ細かく利用者を理解をしていかなければならない。	利用者様の言動や行動を、職員全員で認識し、思いを理解していく。	入居者様ごとに担当職員を決め、その職員が中心になりカンファレンスしていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月